



- 長崎大学学歌の作詞者、俳人 -

平尾 勇 (俳号 圭太)

Hirao Isamu

**私**は戦時中の一時期を除いて、42年間を教職で過ごした。その間、郷里・島原の学校に在職中だった学生時代の恩師に、教育者としての在り方を懇切に指導していただき、可愛がられた。これは幸せなことだと思っている。

島原高校在職中に、公認会計士の試験を受けるのに、内地留学の機会を与えられ、試験制度の初期の頃で、合格が新聞にも大きく報じられた。経済学部時代の恩師、塚原仁先生の眼にとまり、大学へ招聘されることになった。公認会計士として、大企業の監査人として高収入の道もあったろうが、母校の温かさを選り、片淵の地で後輩たちを教えることとなった。

卒業生の中には、公認会計士、税理士として、成功している人も沢山いるようで、学生時代に、公認会計士の資格を持つ私に刺激されたといううれしいことを言ってく

れる者もいる。

私は、俳号圭太として高浜虚子以来のホトトギスの同人となり、幾つかの句会の指導をしているが、この俳号も塚原仁(俳号まさし)先生や野崎辰巳(俳号比古)先生の影響を受けている。詩歌の道では、経済学部の自彊寮の、紫染むる暁け雲や、瓊の浦わの朝ぼらけ...は野崎先生に選んでいただいた。

昭和37年(1962)、総合大学としての長崎大学学歌の募集があり、私の歌詞が当選した。作詞にあたっては、長崎の地にある総合大学としてのよりよい未来と希望を託した。ところが当時は各

## わが作の

## 校歌合唱

## 卒業す

学部それぞれの古くからの校歌の方が歌われて、私の長崎大学学歌はほとんど歌われることがなかった。そして昨年、齋藤学長の発案により、学歌のCDが作られ、入学式、卒業式など、大学

全体の行事には歌われることとなった。作詞者としてうれしいことである。

最近、ある句会で卒業



平尾氏が作詞を手がけた学歌のCD

長崎大学ホームページで試聴できます。  
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

### 長崎大学学歌

出島に寄せし 新潮に  
文化の窓を ひらきたる  
鶴の港に 今集う  
お、長崎大学 我らが母校

卒業は 即入営で ありし世も 圭太  
わが作の 校歌合唱 卒業す 圭太

という季題が出て

この句の通り、私は長崎経済専門学校(長崎大学経済学部の前身)在学中に海軍主計士官の試験を受けて合格し、卒業と同時に、東京築地の海軍経理学校に、海軍主計見習尉官として入学。短期現役、昭和20年3月10日の東京大空襲にもあつたが、鈴鹿海軍工廠に主計少尉として赴任した。

海軍経理学校に進学したのは、長崎経済専門学校先生の勧めで、一兵隊として陸軍にとられては、私の貧弱な身体がもたないからということであった。海軍はすでに、戦後復興の勢力温存のために、短期現役の制度を利用したといわれて、私の同期生で、戦後、財界、政界、官界、法曹界で活躍した者は枚挙にいとまがないくらいである。私が短大主事をしてきたときの文部事務次官が井内慶次郎君、検事総長が伊藤栄樹君でいろいろな面で助けていただいた。

短期現役...通称「短現」。2年間の短期現役(軍籍に属する)に服務すること。

## Profile

平尾 勇 (俳号 圭太)

1923年長崎県島原市生まれ。1944年長崎経済専門学校(長崎大学経済学部の前身)卒業。海軍経理学校、東芝、旧制島原中学・島原高校教諭を経て、1956年長崎大学商科短期大学部講師、助教授、1968年教授。1989年停年退官。この間、6期12年間同短大の主事。同短大及び長崎大学経済学部の会計学、税務会計を担当した。2000年勲三等瑞宝章受章。長崎大学商科短期大学部名誉教授。「ホトトギス」同人。